

【社会・中1・室町幕府と下剋上】①

育成を目指す資質・能力（単元）

- （知識・技能）南北朝の動乱と室町幕府、日明貿易、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことや民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。
- （思・判・表）東アジアにおける交流、応仁の乱の影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことについて多面的・多角的に考察し、表現する。
- （学びに向かう力等）中世の時代の特色は何かを主体的に追究しようとする態度を養う。

ICT活用のポイント

学習支援ソフトを活用することで、協働で作業をしたり、他者と考えを共有・深化したりすることができる授業。

【つかむ】

室町幕府と戦国大名を提示することで、政治の中心が変化していることに興味をもち、学習の見通しをもつ。

なぜ、戦国大名のような個人が権力をもつ社会に変わったのだろうか。

【追究する】

社会が変化した理由を「民衆」「農業・商業の発達」「貿易」「下剋上」「守護大名」などの視点から、多面的・多角的に考察し、表現する。

【まとめる】

本時のまとめをし、学習を振り返る。

幕府の弱体化や地方の成長など、さまざまな要因が絡み合い、個人が力をもつことができる社会になったから。

事例の概要

- 追究する過程で、学習支援ソフトを活用し、協働で作業を行う。
- 追究する過程で、学習支援ソフトを活用し、他者と考えを共有したり、全体で考えを比較したりすることによって、多面的・多角的に考察し、表現する。

【事例におけるICT活用の場面①】

グループの考えを短時間でまとめて提出するために、ICT端末上のYチャートに協働で書き込む。

【事例におけるICT活用の場面②】

他のグループの考えをもとに多面的・多角的に考察するために、完成したYチャートを共有し、ICT端末上で閲覧する。

【事例におけるICT活用の場面③】

教師がファシリテーター役となり、それぞれのグループの意見を取り上げ、話し合いを行いながら考えを深める。

【社会・中1・室町幕府と下剋上】②

【事例におけるICT活用の場面①】ICT端末 学習支援ソフト

写真1



日明貿易のように、貿易で利益をあげた人がいるよ。こういう人が力をもったんじゃない？

写真2



みんなで一つのシートに書き込むとすぐにYチャートも完成するね。

学習課題に対する個人の考えを、根拠を示しながら、3～4人グループの中で発表した。発表内容を「幕府の力」「民衆」「農業・商業の発達」「貿易」「下剋上」「守護大名」などの視点ごとに分類し、学習課題に対する要因としてより重要だと考えた視点を3つ選択することで、自分のグループの考えにこだわりがもてるようにした。

(写真1)

また、自分のグループの考えをICT端末上のグループ内で共有されたYチャートに協働で考えを入力させたことによって、グループの考えをまとめる時間を短縮することができた。(写真2)

自分たちのグループの考えを、協働でYチャートに表した後、共有されている他グループの考えを閲覧し、自分たちの考えと比較しながら、学習課題に対する考えを再度検討している姿が見られた。(写真3)

【事例におけるICT活用の場面②、③】ICT端末 大型提示装置

写真3



なるほどな。このグループは、こんなふうに考えているのか。

写真4



教師がファシリテーター役として、問いかけやゆさぶりを繰り返し、教師と生徒、生徒同士のやりとりの中で、考えを深めさせていた。

教師が、大型提示装置に表示されたグループのYチャートを基に、学習を進めた。(写真4)

教師が意図的な指名や働きかけを行いながら、学習課題に対して何が大きな理由となったのかを考えさせた。生徒はグループでまとめた自分たちの考えにこだわりを持っているので、資料やこれまでの学習を基にそれぞれの視点にこだわって考えを主張した。教師と生徒、生徒同士のやりとりの中で、教師が上手にそれぞれの考えを取り上げ、重要なポイントに気づかせたことで、生徒は社会の変化の要因を1つに絞ることができず、さまざまな要因が絡み合っ、個人が権力をもつ時代となったことを理解し、多面的・多角的な見方で事象を捉えることができた。